

教養講座 地元学を考える

第百六十一回「地元学を考える」
(二〇一七年五月十三日開催)

「らく杯」 開発の報告

講師 大竹愛希さん

今回開催された第百六十一回の地元学では、合同会社楽膳から大竹愛希さんを講師として迎え開催されました。これまでも度々講師として参加されており、昨年の十月に開催された地元学でも、「エシカルなものづくり」という題目で講演とワークショップを開催していただきました。今回は、この前回のワークショップにて検討された製品「らく杯」の開発状況についての報告と、これまでのもの作りを通して楽膳が実践してきた「ユニバーサルデザイン」のあり方についてお話しいただきました。

伝統工芸である会津漆器の技法を使用した代表作である「楽膳椀」や「ともはし」(箸)など、多くの製品に共通するコンセプトは、「障がいのあるなしに関係なく、豊かな気持ちで食事できる時間を提供したい」というものです。機能性もさることながら、障がいをお持ちの当事者が制作に

関わる事による社会参加の機会となる、いわゆる「心のユニバーサルデザイン」ともいえる取り組みを実践されてきました。
今回発表された「らく杯」とは、日本酒を頂くための器で、いわゆる「ぐい飲み」と言われるものです。完成品は、起き上がりこぼしのように倒れず、なめらかで持ちやすいデザインの器となっていました。しかも、日本酒を注いだ際に特殊な水流が発生することで「香り立つ」様な風味が生まれるという、日本酒を頂くにはもってこいの特徴を併せ持つという、とても完成度の高いものに仕上がっております。
この「らく杯」は開発開始当初から海外への輸出を視野に入れていたようで、実は既に海外で開催された展示会への出展も行っているとのこと。なんとオランダのアムステルダムにあるロイドホテルを会場とした「MONO JAPAN」という日本のクラフト品やデザインプロダクトに特化した展示販売会に出席し高評価を頂いたとのことでした。
講師はオランダを実際に訪れた際の感想と併せて、オランダという国についてや国民

性などについて教えていただきました。その中でも特に印象深いのは、子供の幸福度が世界一の国であるということ。その理由の一つに、「イェナプラン教育」という子供の教育法があり、異年齢の子供たちや障がいを持つ子供たちがまぜこぜになり学ぶという環境にあるといます。これは、これまでシャロームが継続して取り組んできている「障がいのある人も無い人も、共に生きるまちづくり」の実践という考えについての一つの有効な手法のように感じました。
グローバルな広がりを見せている楽膳の取り組み、中でも今回の「らく杯」は趣味の道具として人々に広く受け入れられつつあるようです。今後の更なる発展を願いつつ共にユニバーサルな世界を実現できるように取り組んでいきたいと思っております。(玉川 秀典)

教養講座 地元学を考える

第百六十三回 予告

子どもの権利条約と岩槻ひまわりプロジェクト @地域猫ご縁

〈講師〉木附 千晶さん

(臨床心理士、子どもの権利条約日本 運営委員)

〈日時〉2017年7月8日(土) 13:30~15:00

〈場所〉まちなか夢工房 2階 〈参加費〉500円

〈講演内容〉

「命と関係性以上に大切なものなどない。東日本大震災の教訓を胸に、ひまわりをシンボルにして子どもの権利条約の理念が活きた、あらゆる命が大切にされる社会を目指そう！」

子どもの権利条約日本(CRC日本)が取り組みはじめた「CRC日本ひまわりプロジェクト」にはそんな思いが込められています。これは、ひまわりを育て、福島を元気にしようという地元の人々たちを応援することを通して、福島の人々やそれに参加する他都道府県の人々とともに、ひまわりの花をシンボルに「子どもの権利条約にもとづいた新しい社会をつくらう!」「そのための話し合いの場を、そして人間関係を紡いで行こう!」という子どもの権利条約の実践活動です。

そして今、このひまわりプロジェクトがさいたま市岩槻区で地域活動として大きな輪になりはじめています。輪をつないだのは、一匹の地域猫です。ともすれば「不要」と見なされがちな地域猫が、人々に幸せを与え、バラバラになっていた関係をつなげ、目の前にある「小さき命」と向き合うことの大切さを教え、子どもの権利条約を具体的な活動として地域へと根付かせる機会をくれたのです。地域猫がつかないひまわりプロジェクトをご紹介します。子どもの権利条約の本質について、考えるひとときを過ごせたらと思います。

*参加人数把握の為、地元学講座各回ごとに出欠のご連絡をいただければ幸いです。(tel 024-524-2230 または fax 024-525-8285 までお願いいたします)

愛のメモ帳

坐骨神経痛。突然、立つことも座ることもできなくなりました。神経痛と診断され、痛み止めとビタミン剤をもらうが、いっこうに効かず、座薬も効かない。後は、神経を麻痺させるブロック注射で様子を見るしかない? 現在の西洋医学が、神経痛にあまりにも無力であることを身をもって実感した。状況は、具体的な対処法が定まらず症状は悪化していく。寝転んでじっと我慢している日々。

初めての体験で苦しんでいると、周囲の人たちから心配してさまざまなお勧めをいただき、最後は、鍼治療に落ちついて現在は回復に向かっている。長年の生活環境から生まれた体の歪みや骨格の不ズレが原因で、神経を傷つけたり圧迫することから起きていることを知る。人の体を形成する骨格、筋肉、臓器、それを連携する神経の役割、対処療法的な西洋医学との違いと、東洋医学の奥深さを体験した。
神経痛、高齢者の仲間入りのための洗心、何気なく見えていた高齢者で溢れる病院の待合室が、痛みを耐えじっと我慢している高齢者の姿に見えてきた。骨格、筋肉、臓器の健康を日ごろから心がけていくことは基本であるが、整骨や東洋医学の知見を病院が積極的に取り入れていくことでどれだけの高齢者が痛みから解放されることだろうか。